

(様式1)  
令和元年度 目標達成計画

園所名 三木市立よかわ認定こども園

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組  
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

**教育・保育目標**  
「心豊かに生き生きと遊ぶ子の育成」  
・明るく元気に遊べる子 ・やさしく思いやりのある子 ・よく聞き、よく考え、自分の思いが言える子

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価	
共通課題	・お散歩等園外での保育活動における安全対策について	・散歩コースの危険箇所を職員が共通理解し、安全なルートを選ぶ。 ・それぞれの年齢に応じて交通ルールを知り、守ろうとする。	・子ども達が自分でお散歩マップを作成する。 ・職員向け散歩マニュアルを作成する。	・子どもが実際に危険箇所を意識しながら歩くことで、子ども目線の気付きがたくさんあった。自分たちでマップを作ったことで、より実際の散歩時の危険回避に役立っている。今後は他クラスにも発信し、子ども同士の伝えあいの機会を持ちたい。 ・職員向けのマニュアルを作成したことで、経験年数や園児の年齢にかかわらず、散歩時の持ち物や留意点を把握することができるようになった。また、万が一の事故など緊急時に対応できるメリットもあるので、今後も各クラス散歩時に持参したい。	・職員向けの「散歩マニュアル」を作成し、子どもが安全で楽しく活動できるよう配慮事項等を記載し共有している。今後は近隣3園と検討し、共通のよりよいマニュアルを作成する予定である。 ・子どもの視点で「おさんぽマップ」を作成し、保護者にも情報共有してもらうよう廊下に掲示している。今後も、子どもと一緒に、危険なところ・草花のあるところ・気づき発見ポイント等を追記していく予定である。	
良いとこ自慢！	保育内容面	・「遊びを通した身体作り」をテーマに取り組み、指導助言いただきながら、実践と振り返りを繰り返し、子どもの主体性や心の成長につながる取組をしている。 ・乳児クラスの保育環境について、意見を出し合い、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。	・身体作り要素がいっぱいの「よかわっ子オリジナル体操」や運動遊びの経験を重ねる中で、子どもの身体と心の成長を記録に残そう！ ・乳児にも主体性を！子どもが遊びを選ぶ環境づくりをめざそう！	・運動遊びにより、子どもの身体がどう変化したのか記録をとる。 ・乳児クラスの保育環境をどのように整えるか園長、主任、担任で協議し、実践する。	・片足立ちや、鉄棒ぶら下がりなど、クラス別にテーマを決めて、データをとり数値化することで、体の伸びが可視化され、遊びを通して身体が作られていることが明確になった。 ・乳児組の環境設定について、協議を重ね、子どもたちに馴染みがある物や、家庭生活の中で使っている物を用意し、環境を整えることで、イメージが広がり、ごっこ遊びなど友だちとかかわって遊ぶことが盛んになった。また、パズルやひも通しなど、一人でじっくり遊ぶコーナーを作ったことで、子どもが自分で遊びを選択し、落ち着き、集中して遊べるようになった。	・子ども一人一人に目を向け、落ち着いた集団生活の中で、育ちを保障できるように保育がなされている。園庭では、群れ遊びを中心に子どもたちが関わり合って遊ぶように促している。また、年齢が高くなると話し合いをじっくりと行い、子ども同士で考え合って活動が進められるようになってきている。考えたり、判断したりする機会が多くとられ、自分たちで遊びが進められている。 ・子どもたちは自立して遊びを進める機会が多く、自分で目標をもって活動している。その中で相手の気持ちを考えたりすることで、人権感覚を養うことにつながっている。乳児の環境もよく考えられており、試行錯誤を重ねながら、まず子どもが落ち着いて過ごす場が保障されている。個性に応じた環境づくりが工夫されており、大切にされることで自尊感情が芽生えている。
	管理運営面	・環境、体制、子どもの様子など、いつでも相談を受けたり、話し合ったりできる雰囲気があり、職員同士の連携ができており、チームワークが良い。	・必要に応じて職員面談、クラス会議、職員会議をいつでも開催！ ・「例年通り、マニュアル通り」にこだわらず、実態に合わせた勤務体制作り。担当業務の分担を柔軟に行い、時間のロスを最小限に！	・大人も子どもも心穏やかに自分の居場所をきちんと感じながら過ごせるよう、気になることがあればその都度面談や会議を開催する。 ・複数担任のクラスに週休対応や支援員などがヘルプに入り、担任間の保育のすり合わせの時間を捻出する。	・隙間時間を活用し、面談や会議をすることで、保育や支援のあり方などの悩みや迷いが改善される。それが子どもたちへのより良い人的環境につながっている。 ・担任同士が同じ方向に向かって保育する重要性を踏まえ、保育のすり合わせをする時間を捻出することで、今日の子どもの姿を明日の保育につなげ、保育を積み重ねることにつながっている。	・必要に応じて、柔軟にクラス会議や面談を行い、子どもの様子や保育について気になることがあれば、すぐに相談でき、職員間で連携がとれるよう工夫している。 ・話しやすく相談しやすい環境づくりに努め、職員間で話し合ったことをすぐ実践し、成功したことは継続し、うまくいかない場合は再検討し、より良い保育に向けて取り組まれている。 ・会議内容や研修報告を全職員で共有できるよう回覧周知を徹底し、保育や業務についての確に情報共有できるように取り組んでいる。
ここを改善！	保育内容面	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10項目）」をさらに意識する。	・日誌の中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見つけて色分けすることで意識的に取り組む。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がまんべんなく入るように意識して、教育・保育計画を立てる。	・他クラスの日誌に、幼児組は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」乳児組は「育みたい資質・能力3つの柱」に着目して、色分けをする。（目標…週に1回） ・0歳児は「3つの視点」1・2歳児は「育みたい資質・能力3本の柱」の観点で日誌を読み取り、色分けする。	・年齢によって観点を定めることで、どの年齢も保育の振り返りがしやすくなり、次の視点が明確になった。 ・子どもの思いや育ち、保育のねらいなどを家庭へ具体的に伝えられるようになった。	・異年齢での関わりが意図的に組まれており、遊びや生活の中で互いの存在を意識しながら関わる機会がある。子どもたち同士が交流する中で、お世話をしたり手伝ったりという関係性ができ、そこで社会性が培われる機会が提供されている。
	管理運営面	・職員は前向きに保育に取り組んでいるが、時間に追われゆとりがない。 ・建物の構造上、乳児クラスと幼児クラスの互いの保育が見えにくい。	・話し合いの場でスケッチブックに内容を記入していくことで効率化を図る。リアルタイムの可視化により、子どもの振り返りや保護者への保育内容発信、保存のしやすさをめざす。 ・保育スナップやピックアップした日誌など、掲示して共有！	・子ども自身が話し合った内容を振り返ることができるよう、保育室に掲示している。保存する際には、写真に撮ってコンパクトに保存していく。 ・職員室に保育スナップや日誌を掲示し、他クラスの保育の視点や子どもの気づき、学びを共有する。	・保育室に掲示することで、子どもが話し合った内容を振り返ることができるようになった。また写真に撮ることで、保存しやすく、見返しやすくなった。 ・「ちょっとのぞき見！保育のいいね！」コーナーを職員室に設け、各学年の保育について良い点、工夫している点などを掲示することで、保育を共有することができるのと同時に、保育者の士気も高まった。	・子どもたちが話し合った内容をスケッチブックやホワイトボードに記入して可視化し、子どもの振り返り・保護者への発信・保育士の記録保存に活用している。 ・職員室内に「ちょっとのぞき見！保育のいいね！」と題した共有ボードを設置し、クラスごとの保育の内容(写真・絵・連絡ノート・日誌コメント等)をピックアップして掲示している。職員室に設置することで、乳児・幼児クラスの担任やフリー職員等、園に関わる全職員が、各クラスの子どもの様子や保育士の視点・姿勢を共有できるよう工夫している。保育士のモチベーションや学び合いにもつながる取り組みである。